

味村の内川尻に來り、津高郡の東界と作州久米南條郡と、兩國のさかひを流れ、赤坂郡の西さかひを經て、上道御野兩郡の間を流て海に入、是等の川、州内の 大川也。古書に西川東川と有り、西川をば大川。また旭川といふ、歌枕にいへる大川は此川なりと云傳。

〔南紀名勝略志 日高郡〕日高川

源、和州堺ヨリ出テ、湯之又庄、原ノ庄、宮代ノ庄、西村ノ庄、安井ノ庄、柳瀬庄、福井ノ庄、甲斐川ノ庄、小家ノ庄、川上庄、山田ノ庄ヲ經テ海ニ入、河ノ流三十里計ト云ヘリ、草根集ニ、正徹歌、

サシノボル日高ノ川モ解ヤラデ氷ヲクダク紀路ノ旅人

〔和州舊跡幽考 十二〕吉野川

葛葉

八雲刺出雲の子等が黒がみは芳野の川の沖になづそふ

我元真家集もこが犢鼻にするつぶれ石の吉野の川に氷魚ぞかゝれるは

吉野川 ろす箇の折ごとに思ひもよらず波の心を

芳野川の河上は、大臺が原といふ所也、北山に越行道の姨が峯といふなる所のはるかの、左の方にして見わたしにもおよぶ所にあらず、まして人の通ふ所にもあらず、良いとひろく葦荻などの高くしげり、藤かづらはひおほひて、淺澤などやうの水あり、その中にいとふかくて、巴が淵など、いふ所ありとかや、風だにふけば、そのしげりの露落つもりて川の水累をなし、北よりふけば熊野川の水をまし、西よりふけば伊勢の宮川のながれをそへ、東よりふけば芳野川の水かさめりとなり。

〔萬葉集七〕人在者母之最愛子曾麻毛吉木川邊之妹與背之山

〔十寸穗の薄牟婁郡〕熊野川 音無川の末流、北山川の落合の處を巴が淵といふ、是より新宮城まで下り舟里程九里八町といふ、巴が淵船場解纜順流而くだれば、高山村の畔に屏風島アリ、其次